

2019.07.19

*次回展

カミーユ・アンロ | 蛇を踏む
Camille Henrot | Stepping on a Serpent



1978年フランス生まれのカミーユ・アンロは、映像、彫刻、ドローイング、インスタレーションなどさまざまなメディアを駆使して「知」と「創造」の新しい地平を探求する作家です。作品は、旺盛な知的好奇心に突き動かされた膨大なリサーチにもとづき、その範囲は文学、哲学、美術史、天文学、人類学、博物学、デジタル化された現代の情報学など多岐にわたります。しかしそれらを単なる情報として操作するのではなく、広義の教養（すべてのものから学び、内在化したうえで活かすもの）とすべく受容／咀嚼したうえで、天地万有的（ユニバーサル）ともいえる統合と創造へとおおらかに昇華させるのが、アンロの作品の最大の魅力です。

こうした彼女の制作は、映像作品《偉大なる疲労》で2013年第55回ヴェネチア・ビエンナーレの銀獅子賞を受賞したことで国際的に知られることとなり、2017年にはパレ・ド・トーキョー（パリ）にて、全館を使った"carte blanche"（全権委任・自由裁量）の個展開催の権利を与えられた史上三人目の作家となるなど、現代美術家としておおいに注目を集めています。

日本においては、2014年に第6回恵比寿映像祭で《偉大なる疲労》の上映、2017年には森美術館 MAM スクリーン006で短編映像9点の特集上映など、映像を中心に紹介されてきました。本展は、大型のインスタレーション作品を含めた作家のこれまでと現在を、初めて総合的に展示する機会となります。草月流の全面的な協力を得て会場で作られるいけばなの作品は、日本での開催ならではの試みでもあります。

彼女のあくなき知への冒険を共にたどりながら、その先の答えは一つに収斂されることはないこと、さまざまな矛盾や多義性の混沌のなかにこそ世界の理（ことわり）と創造の源があることを体感していただけることでしょう。

会期 2019年10月16日〔水〕—12月15日〔日〕
会場 東京オペラシティ アートギャラリー

開館時間 11:00-19:00（金・土は20:00まで／最終入場は閉館の30分前まで）
休館日 月曜日（祝日の場合は翌火曜日）
料金 一般1,200円、大・高生800円、中・小生無料

主催 公益財団法人東京オペラシティ文化財団
協賛 NTT 都市開発株式会社
助成 アーツカウンシル東京、アンスティチュ・フランセ・パリ本部
後援 在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本
特別協力 一般財団法人草月会
協力 ギャラリー・カメル・メヌール、メトロ・ピクチャーズ、ケーニッヒ・ギャラリー



左：《革命家でありながら、花を愛することは可能か》 2011-12 東京オペラシティアートギャラリーでの展示風景 (2012) photo: Fabrice Seixas
右：《青い狐》 2014 パレ・ド・トーキョーでの展示風景 (2017) photo: Zachary Tyler Newton
courtesy the artist and galerie kamel mennour (Paris/London) Metro Pictures (New York) KÖNIG GALERIE (Berlin) © ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo 2019

* 出品作品

〈革命家でありながら、花を愛することは可能か〉

Is it possible to be a revolutionary and like flowers?

2011- ミクストメディア

日本のいけばなに触発され、2011年から継続的に制作されているシリーズ。シリーズのタイトルは、マルセル・リーブマンによるレーニン伝の一節からとられたものであることをはじめ、作品はそれぞれ一冊の本に由来していて、題名や著者、花材名、本の一節が作品とともに展示されます。「花に翻訳された本の図書館」ともいべきこのシリーズは、文学、哲学、人類学など多岐にわたるその並びや、本と植物の取り合わせなどにアンロの真摯かつユーモラスな思考や感性が見られ、鑑賞者それぞれの創造力を刺激します。いけばな草月流の協力で作成される今回の展示を、作家自身も心待ちにしています。

01 ギャラリー・カメル・メヌールでの展示風景 2012 photo: Fabrice Seixas

02 『チャタレー夫人の恋人』 D.H. ロレンス 2012 photo: Fabrice Seixas

03 『源氏物語』 紫式部 2014



01



02



03

ドローイング

04 《矛盾したメッセージを送る》 2018 水彩、紙

05 《どれにしよう》 2019 インク、紙

作家活動の初期から描き続けているドローイングは、アンロの興味の対象、思考の過程に直に触れることができる作品です。世界をあまねく規定するシステムと、人間の感情、空想といった内的な世界の関係性を観察するアンロのするどい視点が、のびやかな筆致のユーモアに溢れた画面に描き出されています。



04



05

《偉大なる疲労》 *Grosse Fatigue*

2013 ヴィデオ 13分

国立スミソニアン博物館で特別研究員として行った膨大なアーカイヴの調査にもとづいて制作された作品。世界の始原、神話、生命の歴史に関する考察が、情報化時代のスピード感で次々に切り替わるデスクトップ画像と、ヒップホップのリズムにのせたラッパーの語りによって紡がれます。2013年第55回ヴェネチア・ビエンナーレ銀獅子賞受賞作品。

06 courtesy the artist, Silex Films and galerie kamel mennour (Paris/London) Metro Pictures (New York) KÖNIG GALERIE (Berlin) © ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo 2019



06

《青い狐》 *The Pale Fox*

2014 ミクストメディア

アフリカ・ドゴン族の創世神話に関する著作とドイツの哲学者・ゴットフリート・ライプニッツの原理を端緒に、宇宙の成り立ちや人間の生、世界の秩序と多義性を、空間全体を使って考察・構成した重層的なインスタレーション。《偉大なる疲労》と双子の作品ともいえます。圧倒的な量の物と情報の集積、その分類／混沌のないまぜなさまは、アンロの強迫観念的な好奇心と深い洞察に裏付けされた創造の力をみせます。

07 パレド・トーキョーでの展示風景 (2017) photo: Zachary Tyler Newton

図版すべて (06を除く)

courtesy the artist and galerie kamel mennour (Paris/London) Metro Pictures (New York) KÖNIG GALERIE (Berlin) © ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo 2019



07

■ 本展覧会に関するお問い合わせ

東京オペラシティ アートギャラリー

【企画】野村しのぶ 【広報】市川靖子

Tel 03-5353-0756 / Fax 03-5353-0776 / e-mail ag-press@toccf.com